

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年3月15日 午後7時～
会 場 清見自治会館（清見自治会）

参加者 45人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆この自治会館も災害時には避難場所になると思うが、耐震診断は行えないか。
- ◆以前行ったことがあり、大丈夫だった。

◆最近想定外という言葉聞くが、全ての建物が絶対という事はないと思う。大きなテントなども必要と思うが。

☆優先的に何が必要か、考えていく必要がある。

◆自治会加入率が6割、4割は入っていないことになる。市報など行政でもPRに取り組んでほしい。

☆自治会に入って何のメリットがという人もいるが、メリットではなく災害時のために地域力を高めるということを今こそ訴えていくチャンスだと思う。市としても協力していきたい。

◆テーマの災害につよいまちづくりとはどういう意味か。

☆予防という考え方もあるが、まず市民の方自ら命を守り、その後地域の中で地域の方々を守るために、飲料水や災害備品の整備を進めていきたい、しかし、その原動力となるのが地域力であると考えます。

◆災害時などに、買占めなどよく起こる。大型店舗の協力などはあるのか。

☆大型店舗やその他38の災害協定を結んでいる。また他自治体とは3市、現在災害協定を結んでおり、さらに増やすように考えています。

◆この地域は葦原中学校が避難場所となっている。今回ぐらいの地震だとおそらく液状化が起き、使えなくなるのではないか。その時では遅いので何か考えてほしい。

☆課題として認識している。見直しも考えている。地域防災計画の見直しの中で検討していきます。

◆庁舎のロビーなど防災に関するビデオを流し、啓蒙してもよいと思う。広報活動など市が積極的に行っていく必要がある。

☆いろいろな公共施設で実施できたらよいと思う。

◆公園などに井戸を掘ればいざという時に、地域で役に立つ。

☆掘ること自体は可能だが、飲料水の井戸の場合約200メートル程度必要となり汲み上げるための装置は必要となる。井戸などは市全体で配置を考えていく必要がある。

◆東日本大震災においては、中学生が戦力となっているようだが、組織化できないか。

☆中学生ということで組織化は、難しいかもしれないが、学校でもマニュアルはつくっている。もし、日中だったら中学生は学校にいますので力になると思う。

◆個人情報もわかるが、助けるためには要援護者などの情報を地域のいろいろな組織に流すことが必要。

☆市に要援護者の登録をしてもらっているが、決められた所にしか出せない。個人情報保護の壁を解決できる方法を探っている。

◆防災の観点から、条例などで自治会加入を義務付けできないか。

☆条例での義務付けはできないが、そのぐらいしなければならないかという思いはあります。

◆災害時には広域の情報があっても、地域ごとの情報は全くない。情報がないとパニックになると思う。

☆防災無線なども整備したり、車でまわれる所は車でまわるなど、あらゆる方法で、情報発信や情報収集をしたい。

◆この辺は、地盤が強いと昔から聞いているが。

☆絶対という話はできないが、地震時に近隣より震度はいつも1低いので、地盤はよいと考えられる。